

【対象：第3学年】 【実施日：R5.4.18】

〈国語科について〉

1 本校生徒のよいところ

○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題については、正答率94.6%でよくできていた。
○その原因は、授業や補充プリントでくり返しの学習を徹底し、歴史的仮名遣いに関する知識が概ね定着しているからだと考えられる。

2 改善すべきところ

○「文章に即して漢字を正しく書く問題」については、正答率が40.5%と低かった。その原因としては、同訓異字や同音異義語についての知識が乏しく、識別できないからだと思われる。
○「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える」問題は、全国平均正答率より8.9%も低かった。その原因としては、文章を読み比べたり、表現効果について考えたりする機会が今までで少なかったからだと考えられる。

3 今後の改善策

○毎時間の授業の中で、帯活動として漢字学習に重点的に取り組ませる。
○小テストを実施し、苦しい同訓異字や同音異義語についての知識を定着させる。
○学力向上確認プリント中2国語①～⑤に授業で取り組ませる。丁寧に解説して基礎学力の向上を図る。

〈数学科について〉

1 本校生徒のよいところ

○「B:図形」と「D:データの活用」のどちらの領域も全国平均をやや上回っている。
○語句の意味が十分理解できており、適切に活用できていることが原因であると思われる。

2 改善すべきところ

○「A:数式」と「C:関数」については、どちらも大きく全国平均を下回っている。
○基礎的な問題の反復練習の量が不足していることや、関数の本質を十分理解できていないことが原因である。

3 今後の改善策

○基礎問題の反復練習の時間を確保し、基礎・基本の定着を図る。
○言語活動を充実させ、言葉に対する理解を深めさせる。
○関数の領域において、既習内容との結びつきを意識しながら授業を行う。

〈英語について〉

1 本校生徒のよいところ

○「ある状況を描写する英語を聞き、情報を正確に聞き取る問題」については、小学校の時から、授業において指示や活動のルールなどを英語で聞き取ることに慣れているからだと考えられる。

2 改善すべきところ

○「社会的な話題に関して学んだことについて、考えとその理由を書く問題」については、自分の意見や考えを整理して書く力の不足、問題の内容(書き手の意向)を理解して書く力が不足しているからだと考えられる。

3 今後の改善策

○教科書以外の、社会的な話題に関する英文を読む機会を設け、書き手の意向を理解して解く問題に慣れさせる。
○教科書の内容や、定められたテーマについて、自分の考えとその理由を書く活動を単元毎に行う。
○毎時間、既習事項の復習をしっかり行い、文章構造を確実に理解させる。

〈生徒質問紙について〉

1 肯定的な意見が全国平均を上回っていた項目

「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」・「人の役に立つ人間になりたいと思う」・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」・「あなたの住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」など

2 肯定的な意見が全国平均を下回っていた項目

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」・「友達関係に満足している」・「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」・「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」など

☆具体的な方策

○ペア学習、グループ学習を取り入れ、話し合う場面を増やしたり、意見を発表する機会を増やす。
○タブレットやICT機器を効果的に活用し、表現方法を工夫する。(可視化に努め、わかりやすさを追求する)
○読書活動を励行する。(読書週間の継続、図書室の利用改善)
○タブレットの持ち帰り等をはじめ、生徒が主体的に家庭学習に取り組む方策を試行する。